

「性教育における理論と実践の検討」 —養護教諭の「性教育に関する推進者」としての資質向上のために—

キーワード：性教育、理論、有効性、推進者、養護教諭

新潟市立明鏡高等学校 鹿間 久美子

<全県研修会について>

1 研修の概要

平成 21 年 10 月 26 日新潟会館にて約 80 名が参加して全県研修会が開催された。

(1) 実践発表 「性感染症の予防と望まない妊娠の防止」をテーマとした継続的な実践

新潟県立川西高等学校 岩渕 千加子

① 実践内容（平成 20 年度の実践紹介）

- 【1】 全校のテーマを「性感染症の予防と望まない妊娠の防止」に設定
- 【2】 性の指導を今後の生き方に関連づける（性＝生きる）
- 【3】 対等な人間関係の構築、デートDV防止の啓発、性の自己決定、自己選択

② 実践方法

- 【1】 地域の関係機関との連携、支援事業への協力、地域の人材を活かす
- 【2】 各教科との関連性を持たせる（総合的な学習・保健・家庭科）
- 【3】 各種の保健行事や企画と関連性を持たせる（骨密度検査・献血講話・朝食調理実習等）
- 【4】 客観的評価が得られるように、アンケートなどを工夫する

③ 各学年での実践内容

【1 学年】

- ・ 7 月 4 日（LHR） 在宅助産師さんの講話
「性感染症や望まない妊娠防止」の基礎的な知識 対等な人間関係 NO と言える勇気 望ましい行動選択やリスクの対処
- ・ 9 月 3 日（LHR） 外部講師の講話「10 代のいのちと性を見つめよう」
性を今後の生き方とつなげて考えさせる 命の尊さを実感させる 自他を大切に思う気持ち

【2 学年】

- ・ 教科の保健や家庭科（妊娠の仕組み、避妊法、人工妊娠中絶、性感染症、児童虐待防止等）
- ・ 12 月（保健）献血講話 エイズ・性感染症予防、バランスの取れた食生活等
- ・ 2 月 18 日 デートDV防止啓発講話 参加体験型授業の協力校として、デートDVの実態を知り、男女が尊重し合う関係性のありかたを学ぶ

【3 年生】

- ・ 1 月 21 日（総合的な学習） 在宅助産師さんの講話と演習
男女別にそれぞれの課題で 3 年間の総まとめとして行う（生徒の実態で内容を変える）

【全校 1～3 年生】

- ・ 11 月 19 日 精神保健講話 宮腰 友里さんの講話 「心に花を咲かせよう」
いじめ・不登校・引きこもりを経験し、しかも難病と闘いながら自己実現を果たしていく体験談

④ 成果と課題

- 【1】 地域振興局や市の健康支援課との連携や協力が得られ、地域全体の性の指導がレベルアップした。
- 【2】 性の指導を年間計画に位置づけることで、教科と関連性を持たせた見通しある指導ができた。
- 【3】 継続した指導で知識や理解は深まるが、行動化のイメージにはなかなか結びつかない。
- 【4】 「自分の命は大切、自分は生まれて良かった」といった基本的自尊感情が、培われるような講演や指導ができた。学校教育活動全体で行う性の指導は、さらに社会的自尊感情が醸成されると考える。

(会員の感想)

- ・とても素晴らしい実践発表だった。5年間継続してそれぞれの学年の実態や発達段階に応じての指導を何時間も展開していること、事前事後のアンケート結果を評価して、エンカウンターを取り入れている点など学ぶことが多くあった。(新潟県立新津高等学校 藤田 久江)
- ・岩渕先生は、全校に向けた一つの大きなテーマのなかで、学年毎に多様な取組を行われており、先生の企画力、実行力を強く感じた。連携を重視され、体系的に実施されたことで、取組に一貫性があり、連携の重要性を再認識させられた。また、指導時の事前・事後調査が徹底されており、的確に指導の効果を把握、分析されている点も見習いたいところである。貴重な実践から学ばせて頂いたことを今後活かしていきたいと思う。(新潟県立新発田南高等学校 井上 ひと美)

(2) ワークショップ 「実践の有効性を検証しよう」～電卓とワークシートを使って～

高等学校研究部長 鹿間 久美子

性教育の実践を行うと、生徒の反応や感想に効果があったというような「手ごたえ」が感じられる。しかしながら、それは実践者の自己満足や偶然の結果かもしれない。「手ごたえ」を実証的に確認して、本当に効果があるか確かめる。確かめる方法は、有意差の検定を行った後で、検定結果から考察を加え、感想文の内容や「手ごたえ」を裏付ける根拠(エビデンス)を示す。その結果、実践に関する有効性の有無が実証され、実践の効果と今後の課題がわかる。(偶然の結果や、自己満足の域を脱することができる)

検定を行う基本は、基になるデータや計算式、および、計算課程に誤りがあるてはいけない。検定の苦労が水の泡にならないように、細心の注意を払う。なお、クロス表の検定には、いくつかの方法があるので、データの扱い方や分析目的、そして、標本数によって検定する人がどの方法にするかを選ぶ必要がある。

当日は、カイ二乗(χ^2)検定の方法を中心に解説した。カイ二乗(χ^2)の検定順序は、単純集計をしたデータを使って、始めにクロス表を作る。次に計算式に当てはめて計算する。そして二つの値の関連性を換算表を使い差をみる。そこで二つの値の間に差があるか、違いがあるか、有意な関連があるか、(0.1%・1%・5%水準)確認する。ただし、クロス表の枠の値が5以下になるときは補正が必要。どのような場合でも補正した方が信頼性が高いので、実習では、カイ二乗(χ^2)値のYatesの補正方法を紹介し、実習した。

(会員の感想)

電卓持参と聞いた日から「本当に電卓だけで有効性が検証できるの?私にもできるの?」と半信半疑で迎えた研修会であった。実際に体験した後も言われるままに数字を入れたというのが実情で、検定の必要性等を正しく理解出来ていないので、いつも実践している方はすごいなあと変なところで感心した一時だった。今後は、私も何かしら検定を使って、実践に「手ごたえ」を感じられるようになりたいと思う。(新潟県佐渡高等学校 齊藤寿子)

(3) 講話 養護教諭の研究の進め方

新潟県教育庁保健体育課 指導主事 波多 幸江

- ① 学校保健安全法の改正にともない、養護教諭の新たな役割が示されたが、「保健室経営計画の手引き」に、養護教諭の職務内容の項目の⑦その他(子どもの心身の健康にかかわる研究等)と、初めて研究という言葉が明記された。
- ② 養護教諭の専門性とは、学校教育の中で教師の一員として人間形成の教育に携わると共に、子どものニーズを把握し、保健管理と保健指導を通じて、それに答えていくことである。
- ③ 専門性を確かなものにするために、実践研究の積み重ねによる理論化が重要であり、科学的根拠に基づいた実践が求められている。
- ④ 研究を進めるにあたり、【1】どんな目的で、何を明らかにしたいかを考え計画的に行い、結果・考察を論文に示すことが大切である。【2】ただ、実践してみてもよかったからまとめてみるのではなく、それが、児童生徒に有意義であったのか、子どもたちの実践化に結びつくものだったのかを考え、実践していく必要がある。

(4) 講演 「思春期のエンパワーメントと性の健康を支える健康教育」

～なぜ、今、ピアカウンセリング手法なのか?～

自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門・看護学部 客員教授 高村 寿子

(日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会代表)

今、なぜ健康教育でピアカウンセリングの手法が注目を浴びているかというと、発想の転換を図る健康教育、即ち、エンパワーメント教育が求められているからである。エンパワーメントとは、人は誰でも力を持っているという考えをもとに、無力な状態から本来持っている力を取り戻していくことをいう。今までは大人が大人の価値観で若者に教えていくのが主流だった。しかし、価値観の違いがネックとなっていた。当事者（子どもたち）が主役の健康教育が求められてきている。性教育を性の健康教育と捉え、生まれついた性をどう生き生きと実現させていくか、性の健康を支える視点からの健康教育をしていくことが大事である。

エンパワーメントの定義は「自分にはしっかりとした力があるのだと自覚し、自分でコントロールする力を取り戻していくこと」「他者の力を借りて、他者との共同により何らかの目的を達成することができる状態」である。若者にとって支える人の存在は大切である。価値観の押し付けでは若者はつぶれてしまう。分かち合い、共感し、否定しないで受け止めることができれば、その子はエンパワーメントできる。そこで、同じ価値観を共有している同じ世代の若者たちの仲間相談の意義が出てくる。エンパワーメントのプロセスは、傾聴⇒対話⇒問題意識と仲間意識の高揚⇒個人的・社会的行動への発展。このプロセス全体をエンパワーメントという。ピアカウンセリングは傾聴し、否定しないで受け止めていくことからスタートした。エンパワーメントは教育活動である。目的は個人や集団の構造変化。目標は自己効力感に働きかけて、まず小さな目標を持ち、それを実現し自信をつけること。また自尊感情に働きかけ、健康行動の改善を図ること。質の高い思春期を過ごすためのエンパワーメントの必要要件は、将来何をやりたいかなどの「目標」、それを達成するための「個人の技術の向上」、同じ世代の若者がいること、価値観の共有できる仲間の相談などの「周囲の人の支え」、そして「個人を支援する環境を整える」こと。特に、地域保健、学校保健の連携が大事である。



1980年代、先進国の若者の人工妊娠中絶は減少する中、日本は増加傾向にあった。そこで、国は2002年に厚生労働省の政策で「健やか親子21」の主要課題に「思春期の保健対策の強化と健康教育の推進」を上げ、その取組の方向性として同世代から知識を得るピアエデュケーション、ピアカウンセリングなどの思春期の子どもが主体となる取組の推進を明文化した。健やか親子21におけるピアカウンセリングの位置付けは、思春期のヘルスプロモーションの方策であり、若者が自分自身で人生のゴールを見つけ、それを生き生きと実現しようとする能力を育てる健康教育手法である。これをピアカウンセリングと名づけた。ピアカウンセリングは自分探しの旅である。生きることは、生き生きと生きていくこと。これは自分探しをしていくことである。ピアとは、WHO 思春期専門委員会（1977）のピアの定義を踏まえて、仲間意識（価値観・趣味志向・服装・化粧などが同じという意識）から安心感・信頼感を感じる人である。思春期のピアカウンセリングは、誤った情報に振り回されパワーレスになっている仲間に、一対一または対集団を対象にピアカウンセリングを行い、性=生の問題に正しく対処できる自己決定能力や問題解決能力を高めていこうというものである。

価値観を押し付けないで、共感できるなら教師や大人もピアになれる。皆さんも「分かるよ、その気持ち。」という仲間の視点で、ピアのスキルを身につけてほしい。